

見て、知って、誰かに話したくなるコミュニティ情報紙



# FUTABANOWA

ふたばのわ

Vol.146

2025.12.15



全力疾走! 双葉の想いをひとつに! ..... P.2・P.3

学びをステージに! 梅檀祭 ..... P.4

## 今月の表紙

今月の表紙は、第37回ふくしま駅伝に参加した双葉町駅伝部のレース後の様子です。選手たちはそれぞれの区間で、最後まで力強く全力で走り抜けました。大会当日についてP.2~3にて掲載しています。ぜひご覧ください。



## 全力疾走!双葉の想いをひとつに!

解団式では、選手やサポーターが食事を囲んで和やかに語り合い、大会を振り返りました。温かな雰囲気の中、伊澤町長や館下明夫教育長からはねぎらいと「来年は全区間完走を目指して頑張ってほしい」との期待の言葉が贈られました。選手たちは「早速練習したい」「また同じ区間を走りたい」といった前向きな声も上がり、来年への意欲が早くも芽生えている様子が伺えました。

全員が力を尽くしてつないだタスキには、双葉町駅伝部の絆と町への想いが込められています。懸命に走り抜いた選手たちの姿は、町に大きな感動を届けてくれました。

市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が開催されました。双葉町駅伝部は、2年ぶりの全区間出場に臨みましたが、当日は体調不良の選手が出たため、途中棄権となり、公式記録には残らないかたちでの参加となりました。それでも選手たちは最後まで気持ちを切らすことなく、力強い走りを見せました。

「選手たちの走りが、離れて暮らす町民の皆さんにとって双葉町を思い返すきっかけになれば嬉しいです」と語る白玉直裕監督。その熱心な指導のもと、選手たちは大会本番で練習の成果を発揮しました。また、今大会では、選手自らがデザインした新ユニフォームを着用。双葉町の名を胸に、選手たちは全力でレースに挑みました。沿道からの「がんばれ！」という声援に背中を押され、選手たちはタスキをつなぎ目標を胸に最後まで走り抜けました。最終16区を任せられた井戸川俊キャプテンが無事にゴールすると、チームメイトやサポーターが駆け寄り、拍手とともに「お疲れさま！」と声を寄せました。応援に駆けつけた伊澤史朗町長も拍手を送り、健闘を称えました。

11月16日、県内の市町村51チームが参加し、白河市から福島市までの16区間、96.3kmをつなぐ「第37回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）」が開催されました。双葉町駅伝部は、2年ぶりの全区間出場に臨みましたが、当日は体調不良の選手が出たため、途中棄権となり、公式記録には残らないかたちでの参加となりました。それでも選手たちは最後まで気持ちを切らすことなく、力強い走りを見せました。



# 第37回ふくしま駅伝

## 双葉町駅伝部の皆さんを一挙紹介!



1区 秋元 愛さん



2区 山本良春さん



3区 新家柊音さん



4区 阿部政輝さん



5区 鈴木孝明さん



6区 佐藤 剛さん



7区 藤田悠聖さん



8区 藤田湧月さん



10区 宮崎祐輔さん



11区 佐藤香穂さん



12区 木幡穰清さん



13区 渡邊優真さん



14区 志賀亮介さん



15区 澤上 晶さん



16区 井戸川俊さん  
キャプテン



9区 小林詩乃さん

現在は加須市に住んでいます  
が、両親に「双葉町として走って  
ほしい」と声をかけられ、ぜひ参  
加したいと思い出場しました。ふ  
くしま駅伝を走るのは初めてで  
したが、チームの皆さんからのア  
ドバイスを意識しながら走るこ  
とができる、目標タイムも達成でき  
ました。



監督 白土直裕さん

今年は当日に棄権者が出るな  
ど、調整も含めて難しい大会と  
なりました。それでも、チームの  
雰囲気が良く、選手全員が力を  
出し切ってくれました。中学生も  
よく頑張ってくれて、感謝してい  
ます。今後は選手層を広げ、「走  
ることが楽しい」と思えるチーム  
を目指していきます。



# 学びをステージに! 梅檀祭



続いては、小学校5・6年生のテーマ発表「双葉町をもりあげるために」。「町の未来」や「特産品のブロッコリー」を題材に、町をより元気にするためのアイデアを発表しました。会場では、児童たちが考えた町の姿を地図にまとめて展示し、来場者にアンケートを配つて意見を集めました。

はじめに、幼稚園児と小学校2年生から4年生が身体表現「どんぐ・まわって・レッツ・ダンス!」を披露。平均台や跳び箱を使った演技と元気なダンスで会場を盛り上げました。

10月18日、双葉町立幼稚園・小学校・中学校合同文化祭「梅檀祭」が開催されました。今年のスローガン「届けよう—我らと双葉のHEART BEAT—」のもと、「どうぞの学びや練習の成果を発表しました。



中学生のテーマは「我らここにあり~未来見つめて~」。町の魅力や伝統文化に着目した生徒たちは、9月に双葉町を訪問して地元企業や団体を見学しました。1年生は、町の特産品を考える中で企業や町民の方々と意見交換を行い、その内容をもとにオリジナルのドーナツを作成しました。2年生は双葉ダルマとダルマ市をPRするグッズを考案し、発表。3年生は町の見学やイベント参加を通して、地域の魅力を発信する企画を発表しました。

発表の後、中学生が息の合ったダンスを披露し、躍動感あふれる演技で会場を盛り上げました。

梅檀祭の最後を締めくくったのは、小学4年生から中学生によるせんだん太鼓です。力強い音が体育館いっぱいに響き渡り、堂々とした演奏に会場から大きな拍手が起きました。

梅檀祭の発表を終えた児童生徒は「準備は大変でしたが、成功してうれしいです」と話し、保護者も「人前で発表する姿に成長を感じ、感動しました」と笑顔を見せました。

一人一人が力を合わせて創り上げた梅檀祭は、次の学びへとつながる貴重な経験となりました。



## 町内の放射線モニタリング情報

町内の放射線モニタリング情報は右のQRコードよりご確認いただけます。  
測定値は随時更新中です。

詳細はこちらから  
ご覧ください。→

